



卒一看護師のつどい 多くの人に支えられて 一生懸命がんばっています

京都保健会副看護部長 酒井富喜子

看護部では数年前から新卒看護師を対象に6月に「卒一看護師のつどい」を行っています。働き始めて3カ月、夜勤のオリエンテーションが始まる病院もあり、疲れもピークの頃、みんなで集まり、仕事の大変さややりがいなどを語り合い、美味しいものをちよつと食べながらリラクセスできる時間をもつていきます。

昨年からは、6月はそれぞれ3つの病院で、そして9～10月頃には「法人同窓生のつどい」として3病院合同での卒一看護師の集まりとなっています。

今年度も6月につどいがもたれました。京都協立病院は卒一看護師5名と医師などスタッフも加わり20数名でピザを食べ、吉祥院病院は3名の卒一看護師と医事課の新人職員やリハスタッフも一緒に「餃子食べ比べ」、中央病院は2回に分けて卒一看護師20数名が参加しサンドイッチBOXで交流しました。

卒一看護師が語った嬉しかったことは「患者さんから「看護師さん、ではなく名前前で呼んでもらえたこと」「外科急性期で患者さんとゆっくり話す時間もないけど、10分間爪切りをしながら話ができ、看護をしている実感をもった」「注射や採血が1回でできた時、患者さんから『上手や』と褒められたこと」などでした。みんな患者さんとの関わりを通して厳しさもあるけどやりがいを感じています。

看護師の夜勤の独り立ちにあたっては、患者さんの状態を観察し話を聴き、すぐ対処すべきかどうかを判断しリーダーに相談しながら業務をすすめていくことが求められます。夜勤に体を慣れさせていくと同時に大きなストレスがかかりますが、同期のがんばりに励まされ一緒に成長していく姿は頼もしさを感じます。

そして9～10月の交流会では6月からの成長もあり、少し自信がもっている様子をうかがえるでしょう。

看護学生委員会では育ちあう奨学生活動や国家試験合格に向けた支援を行っています。働き始めた看護師さんが多くの人に支えられて生き生きとがんばっている姿は、何よりも委員会活動の励みになっています。

引き続き卒一看護師への病院、事業所全体のご支援をよろしく願います。



友の会 活動家紹介

吉祥院健康友の会 運営委員
山田多鶴子さん



吉祥院健康友の会運営委員の山田多鶴子さんをご紹介します。現在、「まちづくり委員会」、「カフェ存在として活躍されています。毎週金曜日の「カフェキチ」では、立ち上げ当時から関わっておられ、他のボランティアさんと支え合いながら今年で6年目を迎えました。地域の患者さんの大切な居場所として定着しています。また、「まちづくり」としてJR西大路駅のバリアフリー化の実現に向けて、JRや京都市にも粘り強く交渉を続けるなど、長年にわたる運動を継続しておられます。いつでもどんな時にも会員さんや職員に対して笑顔で迎えてくれる山田さん。友の会にとって欠かさない存在です。

(吉祥院健康友の会 事務局長代行 山内 優)